

令和3年度 学校評価実施報告書

学校名（ 烏丸中学校 ）

教育目標

- 「生きていく力」の育成
- ◎人権を大切にし「五つの心」「JAS」を実践する力
- ◎意見を交流し、仲間と共に学びを深める力
- ◎健康を保持、増進する力

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・「五つの心」「JAS」が子どもたちの目標として浸透し、テスト前週間や文化祭以降の3年生の日常生活で「勉強をはやらす」を日常生活の合言葉として学力向上に取り組んできた。その結果、生徒の学習に対する意識が高まり、定期テストが近づくと、休憩時間にも、仲間と自発的に学習する姿が見られ、互いに学び合う様子も見られた。また、12月以降の3年生の教室では、仲間と学習や進路展望について熱心に話をしている場面が多く見られるようになった。・文化祭、体育祭、伝統文化教育で、仲間と共に体験活動を重ねることにより、自己有用感を育み、取組の成果を実感し、達成感を高めることができた。生徒が生徒の意識を変え、仲間の行動により良い影響を与えていく、そのような取組ができた。次年度は、心を豊かに育む道徳授業を充実させ、全校道徳の機会なども設けたい。また、道徳教育や人権教育の工夫により、他者を思いやる心や平和を願う人権意識を高めていきたい。・新型コロナの影響により、オンライン学習を行う機会が増え、ICTを活用した学習環境をより充実させるため、次年度は、タブレット端末を活用し、ロイロノートでの新しい学習スタイルにより生徒の学習意欲を喚起させる授業を展開していきたい。・支援が必要な生徒に対して、学年を超えて多くの教職員で関わる体制ができた。・教職員から「学年の枠を超えて、学校全体で生徒を見ていくこと、それが本校の特徴であり、強みである」という言葉が、様々な教育活動で出ており、教職員の中で浸透してきた。生徒の心の背景を理解した生徒指導も定着しつつあり、今後は、授業力の向上においても、積極的な意見交換をし、学校全体で授業力向上に努めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業や行事での生徒の様子を伝えると、「五つの心」「JAS」といった取り組みは、学力の向上だけではなく、一人一人の心を豊かに育む取組であり、烏丸中の伝統として、欠かせない取り組みであるので、継続してほしいという意見を頂いた。・伝統文化教育での体験学習は、地域の特色を踏まえた上で、小規模校の特徴をうまく生かした取り組みができている。・校門周りから中庭も含め、花と緑に囲まれた環境で、校内美化がされており、子どもたちと教職員、地域の園芸ボランティアの方が頑張っていることが分かり、烏丸中の素晴らしい特徴になっているというご意見を頂いた。・今後も、一人一人の生徒を大切にした教育実践を継続してほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月8日	学校運営協議会 書面実施
最終評価	令和4年 3月3日	学校運営協議会 書面実施

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- ★ 小規模校・少人数の利点を最大限に生かす
- ★ 地域の伝統的・文化的な環境を活用する
- ★ LD等支援の必要な生徒の学力向上

具体的な取組

- ・学力に課題のある生徒やLD等支援の必要な生徒に対し、総合育成支援委員会やケース会議を持ち、具体的な支援の方法について検討し、組織的な取り組みを進め、基礎・基本の学力の定着を図る。
- ・ジョイントプログラムおよび学習確認プログラムを教科の学習サイクルに位置づけ、授業の学習内容と家庭学習の課題とを繋げることにより、家庭学習の定着を図る
- ・言語活動を活用した教科授業を展開し、生徒自らが、主体的・対話的に学習を進める力を育てる。
- ・教師間のグループ研修を実施し、授業力向上のため、ICT活用力を高め、各教科の“深い学び”につながる授業の改善に活用し、生徒自らが深い学びを進められる資質を高める。
- ・伝統文化教育を学校行事や総合的な学習の時間、各教科と連携させ、系統的に実施ことで、より深く、地域の伝統文化の特徴を理解させる。
- ・3年生2クラスを3分割し少人数学習を行い、個の課題に応じた学習支援を行い、学力の定着を図る。(社会・数学・英語)
- ・テスト前学習会を全学年実施し、補充的な学習を行い、基礎・基本の学力の定着を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・全国学力学習状況調査
- ・学習確認プログラム
- ・各教科及び家庭学習の提出状況のチェック
- ・生活アンケート
- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・進路希望調査
- ・教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・各教科の学習活動を、学習確認プログラム実施時期と関連付けながら授業をしており、授業進度に遅れが生じないようにしている。また、予習シートや復習シートを活用し、家庭学習の定着において一定の成果が見られる。しかし、授業での内容を、自分の学習活動と照らし合わせて振り返ると

といった主体的な学びの点では不十分な点もある。今後さらに深い学びへと発展させるための授業改善及び家庭学習づくりが必要である。

- ・提出状況チェックシートの結果、未提出者が若干名いることも今後の取組課題である。
- ・3年生の5月の学習確認プログラムの結果では、数学、英語が平均指數を大きく上回る非常に高い数値であった。社会、理科、国語についても平均指數を上回る高い数値であった。
- 2年生の7月の学習確認プログラムの結果では、数学、英語が平均指數を上回るやや高い数値であった。国語、理科、社会は平均指數よりも低い数値であった。
- 1年生の4月のジョイントプログラムの結果では、国語、数学が平均指數よりやや高い数値であった。
- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「先生が授業を工夫すること」の項目は、1年生 6.2 ポイント・実現度 89% と非常に高い数値であった。2年生 5.9 ポイント・実現度 84%，3年生 5.6 ポイント・実現度 80% と高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学力向上に向けた授業の工夫をしていること」の項目は、1年生 5.3 ポイント・実現度 76%，2年生 4.8 ポイント・実現度 69%，3年生 5.2 ポイント・実現度 74% と、保護者評価は生徒評価と比較し、やや低い数値であった。
- ・3年生の進路希望調査の9月結果では、国公立全日制普通科 42.0%，専門学科 26.0%，私立 22.0% と昨年と比較すると、公立専門学科への進学希望が増加した。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学習確認プログラムの結果では、3年生の正答率は高い数値であるが、苦手意識から粘り強く考えて解答することができていない正答率の低い層がいる。正答率が高い生徒は、学習の習慣が定着し、より深く学ぶ意識が高く、着実に力をつけてきている。正答率の低い生徒は、基礎的な学習段階でのつまずきがあり、学習に対しての苦手意識を払拭できずにいる。
- 2年生の正答率は、授業時間だけでなく、復習などを繰り返して知識を定着させることが苦手で、正答率が低い層がいる。学習が苦手な生徒は、家庭学習の時間を十分に取れていない生徒が多い。また、各学年による学習に支援を要する生徒への対応も、今後の課題である。
- 1年生の正答率は、やや高い数値であるが、正答率の分布では、基礎的な学習段階でのつまずきのある層も見られ、これまでの学習を復習する必要がある。
- ・学力向上に向けた授業の工夫では、生徒からの評価は非常に高い数値であり、密を避ける工夫をしながら、意見交換のできるペアワークや ICT を活用した学習を増やすといった授業改善の成果が見られる。保護者の評価が、授業を受けている生徒に比べて低い数値なので、新型コロナの感染状況を踏まえ、安全を確認したうえで、公開授業などの参観の機会を設け、保護者の方に授業改善の取り組みを見て頂くことも必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・各教科による授業と繋がる家庭学習課題の設定を行う。
- ・学習が苦手な生徒に対して、「自分で取り組み、自分でやり遂げる」といった達成感のある課題や家庭学習を設定する。
- ・各教科において、仲間と意見を交流するグループ活動や ICT を活用した学び合い活動の充実と定着を図る。
- ・総合育成支援委員会を通し、支援を要する生徒の情報共有を徹底する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染状況を踏まえたうえで、安全に留意し、オープンスクールの機会を設け、生徒同士の意見交流やICTを活用した発表の場を取り入れた授業を保護者の方に見ていただく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査 ・教育相談 ・進路相談会 ・提出状況チェックシート ・学習確認プログラム ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策が必要な中で、学力向上に向けて、ICTを活用するなど、授業改善や取組の工夫が成果として現れてきている。今後、学習が苦手な生徒に対して、授業と連動した家庭学習の工夫が必要である。 ・「授業を工夫する」など、生徒評価と保護者評価との差がある項目に関して、授業参観などを実施し、「工夫している内容」を周知することも必要である。 ・3年生は、進路も関係してくるので、家庭と連携し、提出物の指導を徹底していく必要がある。 ・鳥丸中学校の特徴でもある小規模校の強みを出すこと、3年生の3分割による少人数の学習指導は生徒の学力向上に繋がっている。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査 ・教育相談 ・進路相談会 ・提出状況チェックシート ・学習確認プログラム ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期、2学期の進路希望調査時点では、具体的な進路展望を持てなかつた生徒も、進路学習や教育相談、進路相談会を経て、将来、社会で生きる自分の姿を考え、進路希望に繋げることができた。 ・提出状況チェックシートでの指導により、未提出者が多かった生徒も最終的に提出物が出せるようになってきた。次年度は期限を守って提出することが指導の課題である。 ・3年生の1stの結果は、国語、社会、数学、理科、英語において全市平均を大きく上回っている。正答率20%未満の層が非常に少なく、正答率が60%から90%の層が多い。しかし、正答率50%未満の層も見られるので、授業内容を復習できる家庭学習課題を作成し、基礎・基本的な学習に取り組むことが必要である。 ・2年生は、Pre-1の結果は、国語、社会、理科が全市平均よりやや低く、数学、英語は全市平均よりやや高い結果になっている。1年生時のBasic-2と比較すると、数学については、正

答率が上がっているが、国語、社会、理科については正答率が下がっている。正答率の低い原因はどこに課題があるのかを見極め、既習分野の復習を行うことが必要である。

- ・1年生のジョイントプログラムの結果は、全市平均と比較し、国語、数学ともに全市平均を上回っている。課題として、国語の問題の内容では、「文学的文書の読解」の正答率がやや低く、読解に重点を置いて取り組む必要がある。数学の問題の内容では、「資料の調べ方」の正答率がやや低く、資料の活用に重点を置いて取り組む必要がある。
- ・学習確認プログラムの結果では、正答率が高い生徒は、家庭学習の習慣が定着し、学びに対する意識が高く、学習を重ねるにつれて力をつけてきている。正答率の低い生徒は、学習に対する苦手意識が払拭できず、家庭学習を見ても、家庭での学習時間が不十分な生徒が多い。
- ・どの学年も一定の学力が見られるため、「どのように学び、どのような力がついたか」、「学んだことを、どのように使うか」という、知識や技能の習得と活用の仕方を考えるバランスの取れた授業設計が必要である。また、引き続き、学習が苦手な生徒に対して個別にアプローチする授業を続けていきたい。
- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「先生が授業を工夫すること」の項目は、1年生後期 5.9 ポイント・実現度 84%，2年生後期 5.8 ポイント・実現度 83%，3年生後期 5.4 ポイント・実現度 77%，と比較的高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学力向上に向けた授業の工夫をしていること」の項目は、1年生 4.8 ポイント・実現度 69%，2年生 5 ポイント・実現度 71%，3年生 4 ポイント・実現度 57%と、生徒評価と比較し、低い数値であった。
- ・学習の苦手な生徒に対して個別に支援をすることで、基礎基本な学力の定着について成果が表れてきている。また、授業では、新型コロナ対策を考え、ロイロノートを活用し、可能な限り生徒同士が意見を交流できる授業を展開してきた。他者の意見を聞いて、自分の意見を述べる授業が、本校の授業の特徴として浸透してきているので、次年度も引き続き、感染症対策を踏まえた上で、仲間と意見交流のできる授業を展開していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・次年度は、ICTを活用した授業及び家庭学習、デジタルドリルに取り組むようとする。
- ・各教科による授業と繋がる家庭学習課題の設定を行い、保護者にも家庭学習の意図を理解していただけるようとする。
- ・各教科において、仲間と意見を交流する学び合い活動の充実と定着を図る。
- ・総合育成支援委員会を通し、個別に支援を要する生徒の情報共有を引き続き徹底する。
- ・今年度は実施できなかったが、来年度の休日参観、生徒同士の意見交流や積極的な発表の場を取り入れた授業を保護者の方に見ていただき、懇談会などで学習の成果を説明していく。
- ・オープンスクールの機会を設けて、普段の授業の様子を保護者や地域の方に参観して頂けるようとする。

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業での生徒様子や学校行事での生徒の様子を伝えると、引き続き、小規模校の良さを活かして、一人一人を大切にする手厚い学習を期待するというご意見を頂いた。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

人を思いやる心を培い、自分自身を大切にできるように、規範意識を高めけじめある生活を送る。

具体的な取組

- ・学校生活において、J(時間)・A(挨拶)・S(掃除)を中心におき、生活目標として意識させる。
- ・五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として、生徒・保護者・地域に浸透してきているため、引き続き、烏丸中学校の伝統として、誇りを持てるように意識させる。
- ・全校集会で、生徒会執行部が積極的に運営に関わり、司会等を行うことで、自己有用感を高める。
- ・生徒会活動や教科授業などを通じて、「自分の考えを発表する」ことや、「自分以外の人の意見をしっかり聞く」ことなど、仲間と意見を交換し、人との繋がりを通して自他ともに大切にする心を育てる。
- ・地域の文化や環境を、地域の特色・有効な財産と捉え、伝統文化を重んじ、地域の一員として、地域を愛する心を育てる。
- ・人権教育や道徳教育を通じて、豊かな感性と情操を育む。
- ・学校行事など、生徒が成功体験を実感できる取り組みを行い、クラスや学年、学校の絆を高める。
- ・携帯スマホ教室や非行防止教室、薬物乱用防止教室などで、規範意識を高める力を育てる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・生活アンケート
- ・道徳教育、道徳の時間及び学校行事のアンケート及び感想
- ・教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果が、1 年生 5.1 ポイント・実現度 73%，2 年生 5.4 ポイント・実現度 77%，3 年生 4.6 ポイント・実現度 66% と、2 年生が 8 割近い生徒が実感しているのに対して、3 年生が 6 割台と低い割合であった。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目は、1 年生 4.4 ポイント・実現度 63%，2 年生が 4.7 ポイント・実現度 67%，3 年生が 4.4 ポイントと 63% と、全体的にやや低い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「目指す子ども像『自信が持てる』について」の項目は、1 年生 5.1 ポイント・実現度 73%，2 年生 4.9 ポイント・実現度 70%，3 年生 4.8 ポイント・実現度 69% と生徒評価と比較し、やや高い数値であった。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1 年生 5 ポイント・実現度 71%，2 年生 4.6 ポイント・実現度 66%，3 年生 5.1 ポイント・実現度 73% と、全体的に、昨年度より実現度が上昇している。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1 年生 5.6 ポイント・実現度 80%，2 年生 5.1 ポイント・実現度 73%，3 年生 5.5 ポイント・実現度 77% と、全体的に、昨年度より実現度が上昇している。

	<p>度 79%と、やや高い数値であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の目標である五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）についての作文で、多くの生徒が「感謝」や「奉仕」について、学校、家庭、地域での人との繋がりを含め、温かく感性豊かな言葉で書いていた。
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果が、2年生が8割近い生徒が実感しているのに対して、3年生が6割台と低い割合であった。自己肯定感は、自らの存在意義を肯定できる感情であり、自己肯定感の高い生徒は、他人の存在意義も認めることができる。生徒の自己肯定感を高められる教育活動に取り組むことが課題である。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目が、6割台とやや低い数値である。昨年度より微増はしているが、日本はこの項目が低い傾向にあることが指摘されているので、引き続き、「自信をつける」ことができるような教育活動の工夫が必要である。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の結果として、新型コロナの影響で、伝統文化学習ができなかった昨年度に比べて、全体的に数値が上昇した。7月に全校生徒で「河村能舞台」を鑑賞できたことも含め、生徒が地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じる機会になったと評価できる。本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていけるように取り組みを続けていく。 ・心の目標として「五つの心（素直な心、感謝の心、反省の心、互譲の心、奉仕の心）」、生活目標として「JAS（時間、あいさつ、掃除）」を合い言葉にして取り組み、生徒、保護者に浸透しており、鳥丸中学校の教育として定着していることは成果である。また、地域の方より、学校だよりに掲載した「五つの心」「JAS」の生徒の作文を通して、学校の教育方針、教育活動がよく分かるという感想をいただいたことは、取組の成果である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性や積極性を育てるための取組として、生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化や生徒会行事の企画・運営の推進。 ・文化祭や体育祭等の取組を通して、「人との繋がりによる心の温かさ・豊かさ」を実感し、その経験が、他の教育活動でも継続して体験できるように工夫をする。 ・新型コロナ感染対策をしたうえで、地域との繋がりを実感できる活動を模索する。
<p>学校関係者評価</p>	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくこと。 ・人として自分を大切に思う心や自分に自信を持つことまで視野に入れ教育活動をしていることは、大変すばらしいことだと評価できる。この取り組みが生徒、保護者の成長につながるよう期待します。 ・新型コロナウイルス感染防止対策が教育活動に影響を及ぼす中、小規模校の利点を活かして、教育活動を継続し、学校全体に温かい雰囲気が作られていることは評価できる。今後も小規模校の利点を活かして、豊かな心の育成に努めていくことを期待します。 ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目が、新型コロナの影響を受け、活動ができなかった昨年度に比べて上昇している。地域の伝統文化に触れ、体験的な活動することの大切

さが数値に表れている。烏丸中学校では、他校では味わえない多くの伝統文化体験を行っているので、今後も伝統文化と地域との繋がりを更に深めていくようにしていくこと。

- ・心の目標として「五つの心（素直な心、感謝の心、反省の心、互譲の心、奉仕の心）」、生活目標として「JAS（時間、あいさつ、掃除）」を合い言葉として取り組み、生徒の作文を学校だよりに紹介し、烏丸中学校の教育として広く保護者、地域に浸透していることは成果である。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の項目は、1年生 5.4 ポイント・実現度 77%、2年生 5.5 ポイント・実現度 79%、3年生 4.6 ポイント・実現度 66%と比較的高い数値である。1年生は、実現度が前期の 73%から 77%に、2年生は、実現度が前期の 77%から 79%に上昇した。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目は、1年生 4.8 ポイント・実現度 69%、2年生が 4.9 ポイント・実現度 70%、3年生が 4.5 ポイント・実現度 64%と、3年生がやや低い数値であったが、前期より数値は上昇した。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「目指す子ども像『自信が持てる』について」の項目は、1年生 4.7 ポイント・実現度 67%、2年生 4.9 ポイント・実現度 70%、3年生 4 ポイント・実現度 57%と、3年生が、やや低い数値であった。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生 4.9 ポイント・実現度 70%、2年生 4.8 ポイント・実現度 68%、3年生 5.1 ポイント・実現度 73%と、伝統文化の取組が再開できたため、昨年度に比べ、1年生の数値が上がった。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生 5.1 ポイント・実現度 73%、2年生 5 ポイント・実現度 71%、3年生 5 ポイント・実現度 71%と、伝統文化の取組が再開できたため、昨年度に比べ、1年生の数値が上がった。 ・授業や学校での取組、学校行事を経て、五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として生徒たちに浸透している。来年度も、五つの心が烏丸中学校の伝統として、誇りを持てるようにしていきたい。 ・生徒会活動や教科授業において、「自分の考えを伝え、仲間の意見を聞き、自分の考えをまとめる」ことを実践し、人との繋がりの中で、自他ともに大切にする心が育ってきた。 ・次年度も伝統文化学習を通して、地域の方に指導を受け、地域の文化や環境を誇りと捉え、地域を愛する心を育てていきたい。伝統文化学習を通じて、地域とのつながり、伝統文化とのつながりを強化していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒の自主性や積極性を育てるため、生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化を図る。
- ・生徒が企画・運営する生徒会行事を増加させる。
- ・生徒会活動や各種委員会活動において、心の目標の「五つの心（素直な心、感謝の心、反省の

	<p>心, 互譲の心, 奉仕の心」, 生活目標の「JAS (時間, あいさつ, 掃除)」の実践を啓発していく活動を企画。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA (保護者), KKP (小中連携)とのあいさつ運動の連携強化。 ・文化祭や体育祭での取組等, 「人との繋がりによる心の温かさ・豊かさ」を感じることのできる教育活動の継続。 ・文化祭の取組を活用し, PTAの伝統文化学習への参加 (お茶会) や参観を企画。 ・地域行事への積極的な参加や地域への貢献活動。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 対面形式での学校関係者評価会議はできなかつたが, 書面開催の連絡をする中や, 地域で顔を合わせる場面で, 本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し, 授業での生徒様子や学校行事での生徒の様子を伝えると, 地域, 保護者, PTAが協力し, 学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるとご意見を頂いた。 ・学校評価アンケートの項目の「自分に自信をもつこと」が, 生徒, 保護者, 教職員とも低い数値になっている。どうしても, 自己肯定感の低い世代でもあり, 新型コロナ等の影響もあり, 自己表現する機会も減っているからだと考えられる。「自分の強み」を見つけられるような「きっかけ作りや環境」を, 学校, 家庭で協力して作れるようにしたい。 ・新型コロナウイルスの影響で, 教育活動自体が困難な中, 工夫や配慮を重ね, 生徒会活動や文化祭, 体育祭といった学校行事を通し, 学校全体に温かい雰囲気が作られているので, 今後も継続して欲しいとのご意見を頂いた。 ・来年度も, 引き続き本校の特徴である伝統文化に取り組み, 地域との繋がりを大切にして欲しいとのご意見を頂いた。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>健康を保持増進し, 安全な生活を自主的に送ろうとする意識を高める。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察, 生活習慣アンケートを実施し, 健康の保持増進の意識を高める。 ・ 薬物, 非行防止教室を実施し, 自己の健康のために, 責任ある行動をとる重要性を理解させる。 ・ 避難訓練等を通じて防災・安全に対する意識を高める。 ・ 性に関する指導を実施し, 自他ともに大切にできる態度を養う。 ・ 食教育, 健康教育 (喫煙・アルコール・薬物など) を実施し, 食と健康の大切さを理解させる。 ・ 地域防災の拠点として, <u>地域や小中が連携し</u>, 地域の一員としての防災の意識を高める。 ・ 教育相談の機会を活用し, 心の健康の重要性を理解させる。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケート ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・各種教室 (スマホケータイ, 薬物乱用防止, 非行防止) 後の生徒感想アンケート ・教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値, 3.5 ポイントが中間, 1 ポイントが最小値）において、「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、1年生 5 ポイント・実現度 71%, 2 年生 5.4 ポイント・実現度 77%, 3 年生 5.1 ポイント・実現度 73% と、比較的高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値, 3.5 ポイントが中間, 1 ポイントが最小値）において、「子どもが悩みを相談できる場があること（カウンセラーなど）」の項目で、1 年生 5.3 ポイント・実現度 76%, 2 年生 5 ポイント・実現度 71%, 3 年生 5.4 ポイント・実現度 77% という比較的高い数値であった。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1 年生 5.8 ポイント・実現度 83%, 2 年生 5.4 ポイント・実現度 77%, 3 年生 5 ポイント・実現度 71% と比較的高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1 年生 4.8 ポイント・実現度 69%, 2 年生 4.3 ポイント・実現度 61%, 3 年生 4.6 ポイント・実現度 66% と 2 年生の保護者の実現度がやや低い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、1 年生 5.5 ポイント・実現度 79%, 2 年生 5.3 ポイント・実現度 76%, 3 年生 5.3 ポイント・実現度 76% と、小中連携で取り組む挨拶について、保護者評価は比較的高い数値であった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、7 割を越える生徒が実感できていることは成果である。今後、学校生活を通じて、小規模校の特性を生かして、学級、学年の枠を越えて、一人一人の生徒を学校の教職員全員で育てるという体制を構築していく。
- ・「部活動が盛んであること」の項目では、1 学期の期間は、新型コロナの影響を大きく受けた昨年度に比べて、本年度は、何とか部活動が行える状況ができたため、生徒は、比較的高い数値になっている。
- ・「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、保護者評価が比較的高い数値であった。小中連携で、朝の挨拶運動をしてきた成果が学校評価の数値に出てきている。
- ・生活面での大きな乱れは見られないが、コロナ禍での精神的ストレス、活動制限による運動不足など、生徒にとって苦しい状況であることが、日常生活の様子でも見て取れる。また、インターネット環境が、コロナ禍では必要不可欠であり、私的なネット使用については、睡眠不足の原因にもなっており、使用時間のルール決めるなど、対策が必要になっている。
- ・健康教育のさらなる充実が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学級、学年の枠にとらわれず、今後も全ての生徒に全ての教職員で関わり、「きめ細やかな気づき」を大切にするスタイルを貫くことが重要である。そのためには、生徒の様子をしっかりと観察し、生徒に関わる時間を増やし、教職員間で情報共有を行う。
- ・「挨拶ができる」と実感される保護者の方が増えている現状であるからこそ、生徒たちが「心通う挨拶」ができるように、更に、小中が連携した挨拶運動の取り組みを進めていく。
- ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。

	<p>また、家庭でタブレット端末を使用する必要がある場合は、保護者の方にご協力をいただき、使用時間を決めて、生徒がタブレット端末を利用できるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・生活アンケート
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「悩みを相談できる場が学校にあること」ということでは、保護者の些細な疑問や相談事に関しては、PTA活動などを通じて、親同士の繋がりにおいても解決できるようにしていく。 ・「挨拶ができる」と実感される保護者が増えていることは、小中が連携した挨拶運動の成果である。 ・小規模校の強みを生かして、生徒ひとりひとりと教職員全員が人間関係を構築しようとする努力が見られる。今後も、子どもたちとの温かい人間関係作りを継続して行い、子どもたちの繊細な変化を見逃さずに、丁寧な指導をして欲しい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・生活アンケート ・各種教室後のアンケート
自己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート(各項目の実現度: 7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値)において、「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、1年生4.8ポイント・実現度69%，2年生5.6ポイント・実現度80%，3年生5.3ポイント・実現度76%と比較的高い数値であった。2.3年生は前期より上昇した。引き続き、生徒と生徒、生徒と教師の温かい人間関係づくりの取組が必要である。 ・学校評価保護者アンケート(各項目の実現度: 7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値)において、「子どもが悩みを相談できる場があること(カウンセラーなど)」の項目で、1年生5.2ポイント・実現度74%，2年生4.7ポイント・実現度67%，3年生4ポイント・実現度57%と、学年が上がるにつれて、実現度が低い数値となった。保護者の方と連携し、生徒の悩みに早期に気付くことが必要である。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生5.1ポイント・実現度73%，2年生5.2ポイント・実現度74%，3年生5.2ポイント・実現度74%と前期と比べて、やや数値が下った。後期は、新型コロナの影響で、長い期間部活動が出来ていないうことが、今回の数値に表れていると分析できる。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生4.6ポイント・実現度66%，2年生3.9ポイント・実現度56%，3年生4ポイント・実現度57%と、生徒に比べて、低い数値であった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケートにおいて、「を目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、1年生 5.5 ポイント・実現度 79%，2年生 5.6 ポイント・実現度 80%，3年生 4 ポイント・実現度 57%と、1.2年生の保護者評価は高い数値であった。小中連携で取り組む挨拶については、今年度は、新型コロナの影響で、PTAとの共催ができなかったが、小学校時より挨拶運動に取り組んできた成果が表れている。次年度は、是非とも PTAとの共催、小中連携での挨拶運動に取り組みたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の枠にとらわれず、来年度も全ての生徒に、全ての教職員で関わっていくスタイルを貫くことが重要である。そのためには、授業はもとより、学校行事及び日常生活での関わりの場面で、教職員全員が、生徒の様子をしっかりと観察し、生徒の内面を理解するための情報共有を行うことが重要である。 ・気持ちよく学校生活をスタートさせ、温かい人間関係づくりに繋がる「心通う挨拶」ができるように、更に、PTAと連携した挨拶運動、小中連携した挨拶運動を進めていく。 ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。 ・今年度は、新型コロナの影響で、地生連やPTA校外補導委員会と共に催す家庭教育講座を実施することができなかったが、来年度は、健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業での生徒様子や学校行事での生徒の様子を伝えると、地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるとご意見を頂いた。 ・新型コロナウイルスの影響で、教育活動自体が困難な中、様々な工夫や配慮を重ね学校全体に温かい雰囲気が作られているので、今後も継続して欲しいとのご意見を頂いた。

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>伝統文化教育の充実及び少人数を活かした教育の実践</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種伝統文化体験 (和菓子作り体験、京象嵌作り体験、茶道作法体験、和装着付け体験、陶芸教室、琵琶引き語り体験、屏風絵鑑賞体験、百人一首大会など) ・体育祭などの縦割り集団の活用 ・少人数クラスの編成（3年生による三分割授業）<社会・数学・英語>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・伝統文化体験後のアンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生 5 ポイント・実現度 71%，2年生 4.6 ポイント・実現度 66%，3年生 5.1 ポイント・実現度 73% と、全体的に、昨年度より実現度が上昇している。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生 5.6 ポイント・実現度 80%，2年生 5.1 ポイント・実現度 73%，3年生 5.5 ポイント・実現度 79% と、やや高い数値であった。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「鳥丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目は、1年生 5 ポイント・実現度 71%，2年生 5.4 ポイント・実現度 77%，3年生 5.3 ポイント・実現度 76% と、高い数値になっている。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「小規模校の利点を最大限に生かした取り組みを行うこと」の項目は、1年生 5.7 ポイント・実現度 81%，2年生 5.2 ポイント・実現度 74%，3年生 5.8 ポイント・実現度 83% と、高い数値になっている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の結果として、新型コロナの影響で、伝統文化学習ができなかった昨年度に比べて、全体的に数値が上昇した。7月に全校生徒で「河村能舞台」を鑑賞できたことも含め、生徒が地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じる機会になったと評価できる。本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていけるように取り組みを続けていく。
- ・地域の特性を活かした伝統文化教育は本校の特色であり、教育効果も非常に高い。今後も伝統文化教育に関わる取組は継続していく必要がある。
- ・例年、体育祭の縦割りの取り組みなど、学年の垣根を越えて、生徒同士が温かい交流を深めているので、後期の学校行事では、鳥丸中学校独自の温かい校風を継続できるようにしていく。
- ・「鳥丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目では、生徒アンケート、保護者アンケートとともに、高い数値が出ている。全校でのレクレーションの取組や、小規模校独自の一体感を全校で意識して活動してきた成果である。また、少人数クラスの編成で授業をする（3年生による三分割授業）社会、数学、英語での取り組みも、少人数の良さを活かした取り組みを実感できている要因である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」について、生徒や保護者向けに、学校での様々な取組や行事を、ホームページや学校だよりを通して紹介し、伝統文化に触れ、伝統あるこの地域に愛着を深めていけるようにする。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・行事の様子及び行事後のアンケート

学校関係者評

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナウイルス感染防止対策が教育活動に影響を及ぼす中、小規模校の利点を活かして、教育活動を継続し、学校全体に温かい雰囲気が作られていることは評価できる。今後も小規模校の利点を活かして、豊かな心の育成に努めていくことを期待します。

価 値	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目が、新型コロナの影響を受け、活動ができなかった昨年度に比べて上昇している。地域の伝統文化に触れ、体験的な活動することの大切さが数値に表れている。鳥丸中学校では、他校では味わえない多くの伝統文化体験を行っているので、今後も伝統文化と地域との繋がりを更に深めていけるようにしていくこと。 小規模校の利点を生かした取り組みを、鳥丸中学校の強みと捉えて更に充実させていくこと。
--------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価保護者アンケート 学校評価生徒アンケート 各種伝統文化体験のアンケートや取り組みの様子
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生 4.9 ポイント・実現度 70%, 2年生 4.8 ポイント・実現度 68%, 3年生 5.1 ポイント・実現度 73% と、伝統文化の取組が再開できたため、昨年度に比べ、1年生の数値が上がった。 学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生 5.1 ポイント・実現度 73%, 2年生 5 ポイント・実現度 71%, 3年生 5 ポイント・実現度 71% と、伝統文化の取組が再開できたため、昨年度に比べ、1年生の数値が上がった。 次年度も伝統文化学習を通して、地域の方に指導を受け、地域の文化や環境を誇りと捉え、地域を愛する心を育てていきたい。伝統文化学習を通じて、地域とのつながり、伝統文化とのつながりを強化していきたい。 学校評価生徒アンケートにおいて、「鳥丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目は、1年生 4.4 ポイント・実現度 63%, 2年生 5.3 ポイント・実現度 76%, 3年生 5.1 ポイント・実現度 73% と、1年生がやや低い数値であった。 学校評価保護者アンケートにおいて、「小規模校の利点を最大限に生かした取り組みを行うこと」の項目は、1年生 5.4 ポイント・実現度 77%, 2年生 4.9 ポイント・実現度 70%, 3年生 4 ポイント・実現度 57% と、3年生がやや低い数値であった。 1年間の授業や学校での取組、学校行事を経て、五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として生徒たちに、しっかりと浸透してきた。引き続き、来年度も鳥丸中学校の伝統として、生徒が誇りを持てるようにしていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、伝統文化学習を再開できたが、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」について、まだまだ制約が多く、生徒たちが交流し、のびのびと活動できる状況にはならなかった。次年度は、地域の方を講師として招き、伝統文化学習の様々な取組を、ホームページや学校だよりを通して紹介し、伝統のあるこの地域に愛着を深めていけるようにする。
学校関係者評	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業での生徒様子や学校行事での生徒の様子を伝えると、地域、保護者、

価 値	<p>PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるとご意見を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、教育活動自体が困難な中、工夫や配慮を重ね、生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通し、学校全体に温かい雰囲気が作られているので、今後も継続して欲しいとのご意見を頂いた。 ・来年度も、引き続き本校の特徴である伝統文化に取り組み、地域との繋がりを生徒の意識に深めていき、中学生が地域行事に参加できるようにすることとのご意見を頂いた。
--------	---

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図り、自らの働き方に関する意識改革を進める。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・目的が重複する学校行事の精選、資料の事前配布等、会議の効率化。 ・校務分掌の役割分担と適材適所への配置。 ・センターサーバへのデータ集約による校務の効率化。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムの記録 ・管理職による個別面談（勤務全般に関する面談に含む）

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムの記録では、新型コロナの特別対応時を除いて、時間外勤務が 80 時間を越える教職員はいない。 ・管理職による個別面談及び勤務の様子から見て、教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図るようになってきている。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの特別対応時以外では、時間外勤務が 80 時間を越える教職員がいないことは成果である。 ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務を進めていることは成果である。 ・通常時では、時間外勤務が 80 時間を越える教職員は現在いない。しかし、多くの教職員が 45 時間を超える時間外勤務となっている。今後、働き方改革を進める上で課題といえる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化、分掌での仕事の役割分担を進め、適材適所で力が発揮できるようにして、時間外勤務の削減を進めていく。 ・会議資料や分掌での資料は、センターサーバにて共有し、データ利用の効率化を図る。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムの記録 ・管理職による個別面談及び勤務の様子

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧に対応し、しっかりと生徒を見て指導しているのは評価できる。社会的に教職員の超過勤務が問題となっているので、いきいきとした姿で生徒に接し、教育活動が進められるように、今後も引き続き、働き方改革も進めていくこと。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録 管理職による個別面談及び勤務の様子
自己 評 価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録では、本年度、新型コロナの対応で、土日に出勤する必要がある場合を除いて、時間外勤務が 80 時間を越える教職員はいない。 管理職による個別面談及び勤務の様子から見て、教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図るようになってきている。 教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務を進めていることは成果である。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 会議の効率化、分掌での仕事の役割分担を進め、適材適所で力が発揮できるようにして、時間外勤務の削減を進めていく。 会議資料や分掌での資料は、センターサーバに共有し、はじめから資料を作成する手間を省けるように、データ管理をする。 日頃より、定時に退勤できる学校づくりを進めていく。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業での生徒様子や学校行事での生徒の様子を伝えると、教職員が丁寧に対応し、しっかりと生徒に寄り添った指導しているのは評価できる。今後、超過勤務を縮減し、教職員が生き生きとした質の高い教育活動ができるように、働き方改革も進めてくださいとご助言をいただいた。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが、いじめの問題を自らの人権問題として考え、人権を大切にする行動を実践する取組を推進する。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。
- ③ 学校評価 生徒向けアンケート「自分の事を大切な人間だと思うこと」「学校の雰囲気が良いこと」

と」の項目。

- ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ① いじめに関する問題行動が発生した場合、該当学年だけが対応するのではなく、学校全体で情報共有し、全教職員が協力して解決に向けて取り組む体制を構築している。いじめ防止についての教職員アンケートの「いじめを防止するため、または早期発見し対応するための教職員体制が確立し、機能している。」では、『よくできている』という答えが多く、次いで『大体できている』という答えが多かった。「いじめに関する事象やいじめに繋がる可能性がある事象が発生した場合は、学校全体で情報を共有し、組織体制で指導にあたっている。」では、個人で対応するのではなく、全体で対応するという回答、『よくできている』という答えであった。また、「いかなる理由があろうと、いじめをしない、許さないという学校環境をつくるために、学校全体で指導をしている」では『よくできている』という答えが多かった。
- ② 年度当初、全校生徒にいじめ対策委員会のメンバーを周知した。
- ③ 学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果が、1年生 5.1 ポイント・実現度 73%，2年生 5.4 ポイント・実現度 77%，3年生 4.6 ポイント・実現度 66%と、2年生が8割近い生徒が実感しているのに対して、3年生が6割台と低い割合であった。
学校評価前期生徒向けアンケートにおいて（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「学校の雰囲気が良いこと」の結果が、1年生 5.6 ポイント・実現度 80%，2年生 5.8 ポイント・実現度 83%，3年生 5.7 ポイント・実現度 81%と、8割の生徒が実感している。
- ④ 5月に実施した「いじめ」についてのアンケート結果では、「友達からされたことで、いやな思いをしたことはありますか。」という設問で「はい」と回答した生徒が全体の 6% であった。内容は「からかわれる、悪口やいやなことを言われる。」、「軽くぶつかられる、たたかれる、けられる。」が多く、「今はどうですか」の設問では「ときどきある」と回答する生徒が多かった。また、「友だちがいじめられているのを見たことがある」という回答は、全体の 3% であった。
これらの内容を生徒指導委員会や補導部会を通じて共有している。
いじめ防止についての教職員アンケートの「いじめを防止するため、または早期発見し対応するための教職員体制が確立し、機能している。」では、では、『よくできている』という答えが多く、次いで『大体できている』という答えが多かった。「いじめに関する事象やいじめに繋がる可能性がある事象が発生した場合は、学校全体で情報を共有し、組織体制で指導にあたっている。」では、個人で対応するのではなく、全体で対応するという回答、『よくできている』という答えであった。また、「いかなる理由があろうと、いじめをしない、許さないという学校環境をつくるために、学校全体で指導をしている」では『よくできている』という答えが多かった。
- ⑤ 学校いじめの防止等基本方針についてはホームページを通して周知している。

自己評

分析（成果と課題）

- ・小規模校であるがゆえに、中学校進学での新しい友人との出会いが少ないという人間関係の中で、互いに相手を理解し合い、認め合い、穏やかな人間関係を保ってきている。ただし、トラ

価 値	<p>ブルで人間関係のバランスが崩れると、新しい人間関係を構築することが困難になり、友人関係に悩む生徒も少なくない。また、小学校からの人間関係のトラブルが中学校まで継続することもあり、中学校に入学してから、人間関係の修復に取り組まなければならないことが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果が、2年生が8割近い生徒が実感しているのに対して、3年生が6割台と低い割合であった。自己肯定感は、自らの存在意義を肯定できる感情であり、自己肯定感の高い生徒は、他人の存在意義も認めることができる。生徒の自己肯定感を高められる教育活動に取り組むことが課題である。 <p>学校評価生徒向けアンケートにおいて、「学校の雰囲気が良いこと」の結果として、8割の生徒が、学校の雰囲気の良さを実感している。学年の垣根を越えて、部活動や学校レクレーションなどを通じて生徒同士が温かい交流を深める鳥丸中学校独自の温かい校風を継続できるように努力を続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月に実施した「いじめ」についてのアンケートより出てきた課題に対して、学校全体で共有し、分析したうえで指導にあたり、学校全体で課題を改善できていることは成果である。 ・いじめ防止についての教職員アンケートより、いじめに関わる事象が発生したときの、学校全体の情報共有は、個人で対応するのではなく、全体で対応するという回答、「よくできている」という答えであった。特にいじめに繋がる事象は、個人で抱え込まない、全体で共有するという意識が教職員に浸透してきたことは成果である。 ・いじめを防止するため、または早期発見するための教職員体制が確立し、機能しているという項目は、「よくできている」に次いで「大体できている」という答えの割合も多く、いじめの未然防止といじめの重大事態化を防ぐためにも、今後さらに、いじめを防止するための体制づくりを進めていくことが課題である。
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の特徴である各教科の他学年への乗り入れ授業にて、きめ細やかな気づきを活かし、全教職員でひとりひとりの生徒を見ていく体制づくりを構築していく。 ・学校評価アンケート項目の「自分の事を大切な人間だと思うこと」、自己肯定感が実感できるように、道徳教育や総合的な学習の時間での取組、文化祭、体育祭などの学校行事、さらに生徒会活動や委員会活動、学級活動を通じて、生徒が自分の力で、行事や取組をやり遂げる達成感や充実感を味わえるようにしていく。 ・学校評価アンケート項目の「学校の雰囲気が良いこと」、温かい人間関係、温かい校風を育めるように、道徳や人権学習を通して、自他ともに大切にし、認めあえる「思いやりの心」を育成していく。また、「五つの心」を合言葉に、今後も学校全体で取り組んでいく。 ・「いじめ」についてのアンケートで「今はどうですか」の設問で、「ときどきある」と回答する生徒が多かった。このことに関して、「いじめ」に関する指導に関しては、必ず継続して生徒を観察し、事後指導とその後の状況確認を行うようとする。 ・いじめを防止するため、または早期発見していくために、教育相談や各種アンケートの後には、学年会や生徒指導部会を設定し、情報共有する機会を学校体制として行うようとする。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③学校評価 生徒向けアンケート「自分の事を大切な人間だと思うこと」「学校の雰囲気が良いこと」の項目。 	

	<p>④児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。</p> <p>⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で教育活動の変更を迫られる中、「学校の雰囲気が良いこと」の結果が高いことは、学校全体で苦境を乗り越えていこうとする一体感の成果だと考える。今後も小規模校の強みを生かして、烏丸中学校の良き校風として、引き続き努力をして欲しい。 ・小規模校の強みを生かして、生徒ひとりひとりと教職員全員が人間関係を構築しようとする努力が見られる。今後も、子どもたちとの温かい人間関係作りを継続して行い、子どもたちの繊細な変化を見逃さずに、丁寧な指導をして欲しい。 ・この年代は、友人関係に悩む子どももいるので、引き続き、学校と家庭、スクールカウンセラーとも連携し、生徒の悩みのサインを見逃さずに、心のケアをしていって欲しい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>① いじめに関する問題行動が発生した場合、該当学年だけが対応するのではなく、学校全体で情報を共有し、全教職員で協力体制を構築している。いじめ防止についての教職員アンケートの「いじめを防止するため、または早期発見し対応するための教職員体制が確立し、機能している。」では、『よくできている』という答えが若干減り、『大体できている』という答えが、1回目より、やや多くなった。</p> <p>「いじめに関する事象やいじめに繋がる可能性がある事象が発生した場合は、学校全体で情報を共有し、組織体制で指導にあたっている。」では『よくできている』という答えが、若干減り、『大体できている』という答えが、1回目より、やや多くなった。</p> <p>「いかなる理由があろうと、いじめをしない、許さないという学校環境をつくるために、学校全体で指導をしている」では『よくできている』という答えが、若干減り、『大体できている』という答えが、1回目より、やや多くなった。</p> <p>② 年度当初の全校集会で、いじめ対策委員会のメンバーを周知した。</p> <p>③ 学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の項目は、1年生 5.4 ポイント・実現度 77%，2年生 5.5 ポイント・実現度 79%，3年生 4.6 ポイント・実現度 66%と比較的高い数値である。1年生は、実現度が前期の 73%から 77%に、2年生は、実現度が前期の 77%から 79%に上昇した。</p> <p>学校評価生徒アンケートにおいて（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学校の雰囲気が良いこと」の結果が、1年生 5.4 ポイント・実現度 77%，2年生 6 ポイント・実現度 86%，3年生 5.5 ポイント・実現度 79%と、8割前後の生徒が実感している。</p> <p>④ 12月に実施した「いじめ」についてのアンケート結果では、「友達からされたことで、いやな思いをしたことはありますか。」という設問で「はい」と回答した生徒が全体の 3.7%であった。内容は「からかわれる、悪口やいやなことを言われる。」などがあり、「今はどうですか」の設問では、「ない」の回答する生徒が多かった。また、「友だちがいじめられているのを見たことがある」という回答は、全体の 3.1%であった。これらの内容を生徒指導委員会や補導部会を通じて共有し</p>
--	--

ている。

- ⑤ 学校いじめの防止等基本方針についてはホームページを通して周知している。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・小規模校の限られた人間関係の中で、過度に主張することなく、他者を理解し、互いに認め合い、穏やかな人間関係を保ってきている。ただし、人間関係のバランスが一旦崩れると、別の新しい人間関係を構築することが困難になるため、人間関係を変えられずに悩む生徒もいる。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果として、1.2年生は8割弱の生徒が実感している。しかし、受験期を迎えた3年生が7割弱の低い数値であり、進路選択が迫る中で、生徒の自己肯定感を高めていくことが課題である。
自己肯定感の高い生徒は、他人の存在意義も認めることができるので、学級活動、生徒会活動、学校行事などで、自分で企画し、やり遂げる取組を通して、自分の力を発揮する活動をすることが必要である。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「学校の雰囲気が良いこと」の結果として、8割前後の生徒が学校の雰囲気の良さを実感している。しかし、少ないながらも、現在の学校生活に悩み、自分の居場所を感じられない生徒が存在することに目を向け、学年を越えた縦割りの学校行事や部活動などを通して、生徒同士が温かい交流を深める校風を確立することが必要である。
- ・2学期実施の「いじめ」についてのアンケートより出てきた課題に対して、職員会議で情報を共有し、分析したうえで、丁寧に指導にあたり、生徒個々の状況を考えて、学校全体で課題を改善できていることは成果である。
- ・いじめ防止についての教職員アンケートより、いじめに関わる事象が発生したときの、学校全体の情報共有は、「よくできている」という答えが若干減り、『大体できている』という答えが、1回目より、やや多くなった。個人で抱え込まずに、チームで課題に取り組むことが、いじめの指導の基本として、引き続き学校全体で意識していく必要がある。
- ・職員会議や生徒指導の打合せの場で、「学年の枠を越えて、全教職員で、全員の生徒を観る」という指示が出ていることは、これまでの取組の成果として挙げられる。
- ・いじめを防止するため、または早期発見するための教職員体制が確立し、機能しているという項目は、「よくできている」という答えが若干減り、「大体できている」という答えが、1回目よりやや多くなった。友人間トラブル等を察知する「小さな気付き」により、「課題を大きくさせない」ということを、日頃より強く意識し、今後さらに、「よくできている」という答えが増え、いじめを防止するための組織体制が確立できるようにしていくことが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・小規模校の利点を活かし、教職員一人一人が、生徒一人一人に寄り添い、きめ細かな指導を行う学校体制を構築し、個々の生徒の状況に応じた対応をしていく。
- ・学校評価アンケート項目の「自分の事を大切な人間だと思うこと」、生徒一人一人が自己肯定感が実感できるように、道徳教育をさらに充実させる。
- ・来年度も引き続き、伝統文化教育の体験的活動を充実させていく。
- ・学校行事での縦割りの活動、部活動での学年の枠を越えた活動により、生徒が温かい人間関係を構築できるように取り組みを進めていく。
- ・学校評価アンケート項目の「学校の雰囲気が良いこと」、温かい人間関係、温かい校風を育めるように、人権学習を通して、「思いやりの心」を育成していく。
- ・「いじめ」についてのアンケートで「今はどうですか」の設問で、「ときどきある」と回答が少

	<p>ないながらもあった。「いじめ」に関する指導に関しては、必ず継続して、事後指導と確認を行うようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを防止するため、または早期発見していくために、教育相談や各種アンケートの後には、学年会や生徒指導部会を設定し、情報共有する機会を学校体制として行うようとする。また、職員会議では、必ず全教職員で情報交換を行うようとする。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかつたが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業での生徒様子や学校行事での生徒の様子を伝えると、現在の生徒の落ち着いた学校の状況を評価して頂いた上で、今後も、学校、地域、保護者、PTAが協力していくことが重要であるとご意見を頂いた。 ・新型コロナウイルスの影響で、教育活動自体が困難な中、工夫や配慮を重ね、生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通し、学校全体に温かい雰囲気が作られているので、今後も継続して欲しいとのご意見を頂いた。 ・来年度も、引き続き本校の特徴である伝統文化に取り組み、地域との繋がりを生徒の意識に深めていき、中学生が地域行事に参加できるようにすることとのご意見を頂いた。